

開園して90年  
1926年(大正15年)

県内

# 最古動物園

国内では5番目に古く、  
歴史ある「小諸市動物園」。



「ナナ」15歳  
ライオン  
シカ肉が好物



「ジロウ」13歳  
エミュー  
落ち葉が好き



「ルリ」32歳  
ルリコンゴウ  
インコ  
かまってもら  
うのが好き

**小** 諸市動物園は、県内では一番古く、国内では5番目に古い動物園として存在し、現在に至ってもその歴史を歩み続けています。

大正15年、まだ小諸市が誕生する前に創設した動物園は、ごくごく小規模のまま存在していました。小諸動物園が現在の原型になったのは昭和2年、懐古園の馬場と動物園をつなぐ白鶴橋ができてからであるといわれています。それまでは、自然が作った穴を利用しての檻に、狸やイノシシなどを飼っていました。

昭和三十二年、世界ではソ連が世界初の人工衛星の打ち上げに成功したなか、動物園は「市営動物園」として開園しました。市民の皆さんの期待だった大型動物の「ライオン」と「トラ」が初めて小諸市動物園にやってきました。また、

した動物が人間を襲うおそれや食糧難を引き起こすことを理由に軍部から出された飼育動物の殺処分命令でした。猛獣類は射殺、ゾウなどの大型動物は餓死させたと伝えられています。規模も小さな小諸動物園でも、食糧難のため珍鳥類は近隣の農家に預けられました。終戦後に戻ってきたものはいなく、最後にいた鹿は餌がなく、栄養失調で死んでしまったという証言が残されています。



「カリフォルニアアシカ」や「フンボルトペンギン」も加わり、施設として充実したころ、来園者は1年を経たらずして、15万人を超え、小諸市動物園は大勢の皆さんに親しまれていたことが分かります。